

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 21	スラブ又はスラブフロー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -	
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³	
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 - °C	
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び又は水結合比の目標値の上限	60 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	- kg/m ³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³	
	呼び強度を保證する材齢	28日	流動化後のスラブ又はスラブフローの増大量	- cm	
空気量	4.5 %				

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)

$$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2 \quad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 26.3 N/mm²

(3) 水セメント比(W/C) $m = -14.7 + 24.1 \times C/W$
 $W/C = 24.1 \div (26.3 + 14.7) \times 100 = 58.8 \% \leq \text{【60\%(上限値)】}$
 $\therefore W/C = 58.8 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 153 kg/m³

(5) 単位セメント量(C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 153 \div 58.8 \times 100 = 260 \text{ kg/m}^3$

$C_v = C \div \text{密度} = 260 \div 3.04 = 86 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量(A) $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.651 m³/m³ 実積率 = 62.2 %

$G_v = 0.651 \times 1000 \times 62.2 \div 100 = 405 \text{ L/m}^3$

$G_{1v} = G_v \times 60.0 \% = 243 \text{ L/m}^3 \quad G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 243 \times 2.72 = 661 \text{ kg/m}^3$

$G_{2v} = G_v - G_{1v} = 162 \text{ L/m}^3 \quad G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 162 \times 2.71 = 439 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S) $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ L/m}^3$

$S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 218 \text{ L/m}^3 \quad S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 218 \times 2.57 = 560 \text{ kg/m}^3$

$S_{2v} = S_v - S_{1v} = 93 \text{ L/m}^3 \quad S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 93 \times 2.69 = 250 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a) $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 43.4 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad) $Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 260 \times 1.0000 \% \times 1.00 = 2.60 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤				
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③		
260	-	-	153	560	250	-	661	439	-	-	2.60	-	-		
水セメント比	58.8 %		細骨材率	43.4 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:②		70.0:30.0		粗骨材①:②		60.0:40.0	

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

日本産業規格表示認証工場
深江産業株式会社
江田島市大柿町深江2153番地の1
TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328
配合計画者名 中野 貴之

Table with 2 columns: 工事名称, 所在地, 納入予定時期, 本配合の適用期間 a), コンクリートの打込み箇所. Includes note (夏期修正標準配合).

配合の設計条件

Table with 6 columns: 呼び方, コンクリートの種類による記号, 呼び強度, スランプ又はスランプフロー cm, 粗骨材の最大寸法 mm, セメントの種類による記号. Includes detailed material specifications and test results.

使用材料 c)

Table with 2 columns: セメント, 生産者名 (株式会社トクヤマ), 密度 g/cm³, Na2Oeq %, 混和材①, 混和材②.

Table with 10 columns: 骨材 No., 種類, 産地又は品名, 呼び方反応性による区分 f), 試験方法, 粒の大きさの範囲 g), 粗粒率又は実積率 h), 密度 g/cm³ 絶乾表乾, 微粒分量の範囲 % i).

Table with 4 columns: 混和剤①, 混和剤②, 混和剤③, Na2Oeq % j).

Table with 4 columns: 細骨材の塩化物量 k), 水の種類 l), 回収水(上澄み水), 目標スラッグ固形分率 m), 回収骨材の使用用途 o), 粗骨材, スラッグ水の使用用途 n).

配合表 p) kg/m³

Table with 13 columns: セメント, 混和材 ①, ②, 水 q), 細骨材 ①, ②, ③, 粗骨材 ①, ②, ③, ④, 混和剤 r) ①, ②, ③.

Table with 4 columns: 水セメント比 s), 58.8 %, 水結合材比 s), %, 細骨材率, 43.4 %.

Table with 4 columns: 備考, 骨材の質量配合割合 i), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある, 骨材混合比 (容積混合) 細骨材①:②, 粗骨材①:②, 70.0:30.0, 60.0:40.0.

注 a) 本配合の適用期間: 加工、標準配合、又は修正標準配合を別記する。注 b) 反応性: 骨材の反応性は、ASTM C1261 又は JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 c) 骨材の呼び方: 骨材の呼び方は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 d) 骨材の試験方法: 骨材の試験方法は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 e) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 f) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 g) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 h) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 i) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 j) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 k) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 l) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 m) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 n) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 o) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 p) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 q) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 r) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。注 s) 骨材の試験結果: 骨材の試験結果は、JIS R 5210 による試験結果に基づいて評価される。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 21	スランブ又はスランブフロー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載	
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -	
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³	
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度	コンクリートの温度	最高・最低 - °C	
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び又は氷結材比の目標値の上限	60 %	
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	単位水量の目標値の上限	- kg/m ³	
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下	単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³	
	呼び強度を保證する材齡	28日	流動化後のスランブ又はスランブフローの増大量	- cm	

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 10.0 %

(2) 配合強度(m)

$$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2 \quad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$$
 よって m = 26.3 N/mm²

(3) 水セメント比(W/C) $m = -14.7 + 24.1 \times C/W$
 $W/C = 24.1 \div (26.3 + 14.7) \times 100 = 58.8 \% \leq \text{【60\%(上限値)】}$
 $\therefore W/C = 58.8 \%$

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 153 kg/m³

(5) 単位セメント量(C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 153 \div 58.8 \times 100 = 260 \text{ kg/m}^3$
 $C_v = C \div \text{密度} = 260 \div 3.04 = 86 \text{ L/m}^3$

(6) 空気量(A) $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ L/m}^3$

(7) 単位粗骨材量(G) 当工場の実績により かさ容積 = 0.651 m³/m³ 実積率 = 62.2 %
 $G_v = 0.651 \times 1000 \times 62.2 \div 100 = 405 \text{ L/m}^3$
 $G_{1v} = G_v \times 60.0 \% = 243 \text{ L/m}^3 \quad G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 243 \times 2.72 = 661 \text{ kg/m}^3$
 $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 162 \text{ L/m}^3 \quad G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 162 \times 2.71 = 439 \text{ kg/m}^3$

(8) 単位細骨材量(S) $S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ L/m}^3$
 $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 218 \text{ L/m}^3 \quad S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 218 \times 2.57 = 560 \text{ kg/m}^3$
 $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 93 \text{ L/m}^3 \quad S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 93 \times 2.69 = 250 \text{ kg/m}^3$

(9) 細骨材率(s/a) $s/a = S_v \div (G_v + S_v) \times 100 = 43.4 \%$

(10) 単位混和剤量(Ad) $Ad = C \times \text{添加率} \times \text{密度} = 260 \times 1.2000 \% \times 1.00 = 3.12 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤				
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③		
260	-	-	153	560	250	-	661	439	-	-	3.12	-	-		
水セメント比	58.8 %		細骨材率	43.4 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:②		70.0:30.0		粗骨材①:②		60.0:40.0	
備考															

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

日本産業規格表示認証工場
深江産業株式会社
江田島市大柿町深江2153番地の1
TEL:0823-57-5365 FAX:0823-57-6328
配合計画者名 中野 貴之

Table with 2 columns: 工事名称, 所在地, 納入予定時期, 本配合の適用期間 a), コンクリートの打込み箇所. Includes note (冬期修正標準配合).

配合の設計条件

Table with 6 columns: 呼び方, コンクリートの種類による記号, 呼び強度, スランプ又はスランプフロー cm, 粗骨材の最大寸法 mm, セメントの種類による記号. Includes detailed material specifications and test results.

使用材料 c)

Table with 10 columns: セメント, 生産者名, 密度, Na2O eq %, 混和材, 製品名, 種類, 密度, Na2O eq %, 骨材, 種類, 産地又は品名, 試験方法, 粒の大きさの範囲, 粗粒率又は実積率, 密度, 微粒分量の範囲. Lists materials like 株式会社トクヤマ and various aggregates.

配合表 p) kg/m³

Table with 13 columns: セメント, 混和材 ①, ②, 水 q), 細骨材 ①, ②, ③, 粗骨材 ①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧, ⑨, ⑩, ⑪, ⑫, ⑬. Shows concrete mix proportions.

Table with 4 columns: 備考, 骨材の質量割合合), 混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある, 骨材混合比 (容積混合), 細骨材①:②, 粗骨材①:②, 70.0:30.0, 60.0:40.0.

注 1) 本配合の適用期間に留意し、標準配合又は修正標準配合を記入する。注 2) 冬期修正標準配合は、用荷時のコンクリート温度が標準配合想定温度より大幅に相違する場合、適用期間に留意し、必要に応じて調整を行うこととする。注 3) 骨材の品質が規定の範囲を超過する場合は、事前に骨材の品質検査を行い、その結果に基づき、骨材の品質を調整する必要がある。注 4) 骨材の品質が規定の範囲を超過する場合は、事前に骨材の品質検査を行い、その結果に基づき、骨材の品質を調整する必要がある。注 5) 骨材の品質が規定の範囲を超過する場合は、事前に骨材の品質検査を行い、その結果に基づき、骨材の品質を調整する必要がある。

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 21	スランブ又はスランブフロー cm 8	粗骨材の最大寸法 mm 40	セメントの種類による記号 BB
指定事項(必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB -
指定事項(任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	60 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位水量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	28日		流動化後のスランブ又はスランブフローの増大量	- cm

(1) 変動係数(v)	当工場の実績により v = 10.0 %				
(2) 配合強度(m)	$m_1 = \frac{0.85 \cdot S_L}{1 - \frac{3.0 \cdot v}{100}} = 25.5 \text{ N/mm}^2 \quad m_2 = \frac{S_L}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 26.3 \text{ N/mm}^2$ よって m = 26.3 N/mm ²				
(3) 水セメント比(W/C)	$m = -14.7 + 24.1 \times C/W$ $W/C = 24.1 \div (26.3 + 14.7) \times 100 = 58.8 \% \leq \text{【60\%(上限値)]}$ ∴ W/C = 58.8 %				
(4) 単位水量(W)	当工場の実績により W = 153 kg/m ³				
(5) 単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 153 \div 58.8 \times 100 = 260 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 260 \div 3.04 = 86 \text{ L/m}^3$				
(6) 空気量(A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 L/m ³				
(7) 単位粗骨材量(G)	当工場の実績により かさ容積 = 0.651 m ³ /m ³ 実積率 = 62.2 % $G_v = 0.651 \times 1000 \times 62.2 \div 100 = 405 \text{ L/m}^3$ $G_{1v} = G_v \times 60.0 \% = 243 \text{ L/m}^3 \quad G_1 = G_{1v} \times \text{表乾密度} = 243 \times 2.72 = 661 \text{ kg/m}^3$ $G_{2v} = G_v - G_{1v} = 162 \text{ L/m}^3 \quad G_2 = G_{2v} \times \text{表乾密度} = 162 \times 2.71 = 439 \text{ kg/m}^3$				
(8) 単位細骨材量(S)	$S_v = 1000 - (W + C_v + G_v + A) = 1000 - 689 = 311 \text{ L/m}^3$ $S_{1v} = S_v \times 70.0 \% = 218 \text{ L/m}^3 \quad S_1 = S_{1v} \times \text{表乾密度} = 218 \times 2.57 = 560 \text{ kg/m}^3$ $S_{2v} = S_v - S_{1v} = 93 \text{ L/m}^3 \quad S_2 = S_{2v} \times \text{表乾密度} = 93 \times 2.69 = 250 \text{ kg/m}^3$				
(9) 細骨材率(s/a)	s/a = S _v ÷ (G _v + S _v) × 100 = 43.4 %				
(10) 単位混和剤量(Ad)	Ad = C × 添加率 × 密度 = 260 × 0.8000 % × 1.00 = 2.08 kg/m ³				

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
260	-	-	153	560	250	-	661	439	-	-	2.08	-	-
水セメント比	58.8 %		細骨材率	43.4 %			骨材混合比 (容積混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②				70.0:30.0 60.0:40.0	
備考													